OPTION

全日本
ストリートレーサー

オートマ、パワステ、RB25を搭載し憧れのハコスカが快適仕様となってよみがえる

CHECK POINT
旧車の最新技術リメイク
From 愛知

1) ダッシュボードはハコスカ純正。そこから下の大部分は、ロッキーオートによるワンオフパネルと、C33から流用されたメーターなどのパーツ類だ。オートマのシフトレバーの脇わに、オートエアコンやパワーウインドウのコントロールスイッチが配置されている。大きなエアコンユニットは、助手席のグローブボックスの下に隠されているのだが、ウレタンで作られたパネルのおかげで目立たない。2) 純正シートのレザーを張り替えて、新品の感覚に。内張りは中古の程度のいいものが使われている。3) ホイールは、R5ウタナベとなら5.5J定番。ハヤシレーシングをチョイス。これまた定番のオーバーフェンダーを前後にセットし、フロントは15-8Jのオフセット+10、リヤは15-9Jのマイナスオフセット(−19)となっていまんだ。

オーダー[illegible]るコンプリートカー。このマシン[illegible]R20とオートマがチョイスされたが、[illegible]ュアルと組み合わせたり、ターボエンジンを選んだり、R20やR26の搭載例もある。ロッキーオートでは、すでに100台ほどのRB搭載車を製作しているそうだ。

全日本ウルトラチューンドGP

レストア時に新品のバンパーやフロントウインド、ゴムモールなどに交換され、GT-R純正色でオールペンされて、ピッカピカに仕上げられたハコスカ。でもこのマシン、単に旧車をレストアしてるのとは、ちょっとワケがちがう。

搭載されているのは、実ではなく、C33ローレルのRB25DEエンジン。ミッションは5速オートマで、パワーステアリング、オートエアコンやパワーウインド…など、当時のハコスカでは望み得ない装備を導入。そう、旧車のリメイクに現代の技術を採り入れることで、現在の街乗りで快適に実用できるクルマとしてよみがえらせているんだ。

このマシンを製作したのは、ハコスカやZなどを中心としたノスタルジックカー専門店・ロッキーオート。オリジナルに忠実に仕上げるフルレストアを手がけつつも、いっぽうで、現代のエンジンや装備を搭載し公認を取得したコンプリートカーも提案しているのは知っている読者も多いハズだね。

というわけで、ロッキーオートの最新作がこのハコスカ。これらの旧車を今、実用的に使うとなると、エアコンがなかったり、パワステが効かなかったり、エンジンの始動がタイヘンだったりと、いろいろとストレスがかかるもの。いくらスタイリングが好きだとか、憧れていたからといっても、毎日乗ったり維持していくとなると、むずかしい現状があるからね。これらのコンセプトは、以前から一貫したものだけれど、製作を重ねるたびに仕様が進化しているのがロッキーオートのコンプリートカー仕様なんだ。

この車両も、ボディをまるはだかにして、サビ対策との修復やフレームの補強などの補強を加え、新品や程度のいいハコスカ純正部品と、現代のコンポーネントを結集。オートマで街乗りしたいというユーザーのオーダーにこたえて、C33のエンジンとトランスミッションを移植した。パワステ、パワーウインド、オートエアコン、メーターパネルといった装備も、すべてC33のものだ。もちろん、その制御もC33のノーマルコンピューターによるものなので、安心感も大きい。

ボンネットを開けてRBエンジンが顔を出すのも見ものだけど、もうひとつの見どころは内装。オートマもエアコンユニットも、ノーマルではなかったものが付くワケだけれど、違和感なく溶け込んでいるよ。ダッシュボードから下のコクピットまわりは、ウレタン材を加工してワンオフされているんだけど、これがC33のメーターパネルをマッチングさせたり、エアコンユニットをうまく隠したりして、レトロ感を損なわないようにしているんだ。

昭和と平成のいいとこ取りをしたこんなパッケージなら、いまホモ旧車の購入に二の足を踏んでいたハコスカファンも、現実的な選択肢として検討できるんじゃないかな。

No.14 KGC10スカラインGT改

ロッキーオート ☎0594-68-7080 http://www.rockyauto.co.jp/

エアコンも効くし
猛暑の渋滞でも
安心して乗れます!
ロッキーオート 澤崎さん

「取材当日は猛暑日でしたが、窓を開け放って涼しい顔でクルーシングしてきました。こういう乗り方ができるのも、現代の装備があればこそ。これは完全なストリート仕様ですが、そのうちサーキットでの本格的なスポーツ走行に対応した仕様にもチャレンジしたいと思っています!」

撮影：[illegible]